

## 奈良市教育ビジョン懇話会(平成24年度第1回) 会議録

1 日時 平成24年7月3日(火) 午後3時～午後5時

2 場所 奈良市役所 北棟2階 16会議室

### 3 出席者

【委員】重松敬一委員、岡毅委員、本山方子委員、大西昇委員、畑中康宣委員、奥田美代子委員、上田益世委員、福山晴美委員、竹原康彦委員、木寅葉津子委員、荒木美久子委員、中西拓也委員、中尾靖委員、本車田達郎委員、檜垣志保委員、阪本敏夫委員、出原和美委員

(欠席 木南千枝委員、上山勝己委員)

【市職員】学校教育部長、教育総務部次長、教育総務部参事(教育政策課長事務取扱)、教育総務部参事(中央図書館長事務取扱)、子ども未来部参事、子ども政策課長、地域教育課長、学校教育課長、学務課長補佐、保健給食課長、教育センター教育支援課長、教育センター教育相談課長

【事務局】教育政策課職員

### 4 会議事項

- (1) 新委員紹介
  - (2) 座長あいさつ
  - (3) 事務局説明
    - 平成23年度 奈良市教育ビジョンの施策評価 最終報告(案)について
    - 奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年評価(H21～23)】最終報告(案)について
    - 教育ビジョン後期計画策定に向けたアンケート調査について
  - (4) 意見交換
  - (5) 今後のスケジュール
- ※全て公開で審議。(傍聴人0人)

## 5 配布資料

- 奈良市教育ビジョン懇話会委員名簿
- 奈良市教育ビジョン懇話会設置要綱
- 平成23年度 奈良市教育ビジョンの施策評価 最終報告（案）
- 奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年評価（H21～23）】最終報告（案）
- 平成23年度 奈良市教育ビジョンの施策評価 最終報告（案）差替え（P41、P43）並びに奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年評価（H21～23）】最終報告（案）差替え（P15、P43）
- 奈良市教育ビジョンの施策評価（年度毎の評価）
- 奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年（H21～23）評価】
- 教育ビジョン後期計画策定に向けたアンケート調査票一式

## 6 議事の要旨

### (1) 新委員紹介

- 事務局が、奈良市情報公開条例の指針に基づき、原則公開とすること、会議録作成のための録音と写真撮影等について了承頂きたい旨説明した。
- 事務局が、奈良市教育ビジョン懇話会設置要綱第4項により、2年間の任期途中で、辞任された委員の後任として懇話会委員に委嘱又は任命された方を紹介した。

椋本委員の後任に立命館大学教授 岡 毅（おか たけし）委員  
山口委員の後任に奈良市自治連合会会計 大西 昇（おおにし のぼる）委員  
中村委員の後任に奈良市PTA連合会副会長 奥田 美代子（おくだ みよこ）委員  
秦委員の後任に奈良市立学校園長会会長 上山 勝己（うえやま かつみ）委員

- 委員の委嘱状及び任命書においては、本日の資料と一緒に机の上に置いてあることについて了承頂きたい旨説明した。

### (2) 座長あいさつ

- 重松座長が、開会にあたってあいさつ。

重松座長☞ 教育ビジョンを通して奈良市の教育が、より質の高い、そうし

ていろいろな意味で保護者の皆さんから信頼頂けるような教育の1つの柱としてしっかり全体的展望を示していけるように努力してきた。その評価を皆さんにお願いしている。同時にこの4月から中学校を中心に新しい教育課程がスタートした。小学校も昨年よりスタートしており、そうした新しい国の動き等を踏まえて、この教育ビジョンがこれで十分だというわけではないので、常に新しい見直しを重ねながら社会的な期待に答えていきたいと考えている。そのために、奈良市の教育ビジョンの見直しにかかるアンケートを見させて頂いて、より市民の声を反映しよりしっかりとした教育の柱にするために皆さんのお知恵を借りたいと考えている。短い時間だが、ぜひ忌憚のないご意見を賜り、本当に奈良市で生まれ、奈良市で学んで、奈良市で生活をし、奈良市で終える、それが、本当に良かったと思えるようなそんな一助になればと思う。今日は、真摯な議論をよろしくお願いしたい。

- 奈良市教育ビジョン懇話会設置要綱第5条第2項に基づき、座長職務代理は、委員の中から座長が指名。

座長職務代理：上山 勝己委員

### (3) 事務局説明

- 事務局が、平成23年度 奈良市教育ビジョンの施策評価 最終報告(案)について及び奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年評価(H21~23)】最終報告(案)について説明。(パワーポイント資料)

➤ 平成23年度単年度の施策評価に関して、平成23年度に新たに実施した内容や変更になった内容の主なものについて、基本目標にそって説明する。

➤ 基本目標1「奈良らしい教育の推進」は本教育ビジョンの中核であり、市では、各学校への周知徹底に努めてきた。具体的には、各学校の学校ビジョンの策定を通して、奈良らしい教育の推進に重点をおいた教育活動を進めている。

奈良らしい教育の中核である「世界遺産学習」の取組の充実を各学校で図るために、9作業部会に加え食育部会を新設し学習モデルの開発を行ってきた。また、平成23年度も昨年に引き続き、「世界遺産学習全国サミット2011 in なら」を12月に開催し、全国から延べ810名の参加を得て、世界遺産学習を全国に発信できた。

「30人学級」については、平成23年度に小学校4年生まで拡大実施された。アンケート結果から、30人学級を進めていくことで、

きめ細かな指導・個に応じた指導・空間を生かした活動の工夫・体験活動の充実など、様々な効果が期待され、その効果が実感されていることが明らかになった。

以上のことから、「奈良らしい教育の推進」については、平成23年度の目標がほぼ達成できたと考える。

- 基本目標2「豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進」においては、職場体験・ボランティア体験等の活動や道德教育を通して、感動する心、自他の生命や人権を尊重する心、規範意識や公共心等をはぐくむことを重視している。また、集団活動、スポーツ活動等を通して、協調心や自ら進んで体力を高め、健康を管理しようとする力をはぐくむことも重要である。

「幼稚園・小学校・中学校・高等学校間の連携の充実」については、全ての中学校区で連絡協議会が定着し、研修会が持たれた。また、「地域で決める学校予算事業」により、幼小中の連携した行事が増え、共通理解が図られるとともに協力体制ができてきた。

「学校・家庭・地域が連携した読書活動の推進」については、平成18年9月に策定された「奈良市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書習慣の確立と読書活動の充実、学校図書館の整備充実、市立図書館及び関係機関との連携、協力等、学校図書館支援センターを中心として充実を図ることができた。

以上のことから、「豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進」については、平成23年度の目標がほぼ達成できたと考える。

- 昨年4月に待望の「奈良市教育センター」がオープンした。保健所との複合施設で6階から9階までが教育センターとなっている。6階が教育相談のフロアで、昨年度まで分かれて行っていた不登校と特別支援の相談窓口を一本化し、プレイルームや相談室などの施設を活用した教育相談を実施している。

7階8階は、教職員研修のフロアで、初任者研修などの法定研修をはじめ、教職員の専門性を高める研修など332講座を実施し、延べ8300人の教職員が受講した。

また、9階は、プラネタリウム、キッズサイエンスラボなど子どもたちの学びのフロアとして、23年度末現在で、授業の一環として利用した人数が2513人、休日に利用した人数が8774人となり、利用者が1万人を超えた。参加者の満足度は高く、リピーターも増えている。

- 基本目標3「確かな学力をはぐくむ教育の推進」においては、校種間や職業生活との円滑な接続に留意しながら、発達段階ごとの課題を

踏まえた質の高い教育を保障するよう努めてきた。

「幼児教育の充実」については、幼保合同研修講座を奈良女子大学と連携して年5回実施した。幼稚園教員と保育士がともに研修を受けることができ、幼保一体化を見据えた研修につながった。また、幼稚園・保育所ともに公開保育を数多く実施できたことで、保育者の資質向上と共に幼児教育の向上を図ることができた。

「特別支援教育の推進」については、教育センター教育相談課に指導主事が増員され、不登校の児童生徒への支援と共に、特別支援教育を担当することになった。また、教育センターの設備を活かしながら、障がいのある幼児児童生徒の教育相談を行うことができた。また、保健所との複合施設の利点を活かし、健康増進課の4歳6ヶ月健診と連携し、就学に向けての相談ができた。保護者の精神的な問題については、保健予防課と連携が確立しつつある。

「情報教育の推進」については、教育委員会内に専任の情報担当を設置し、導入した情報システムの運用改善を図り、利活用の推進を行った。また、ホームページを改版し、試験的なデジタル教科書の整備を行った。教育センター内のコンピュータ研修室へのパソコン配備は平成24年1月に完了し、今後教員のICT研修等に活用していく。

以上のことから、「確かな学力をはぐくむ教育の推進」については、平成23年度の目標がほぼ達成できたと考える。

- 基本目標4「信頼される学校づくり」においては、学校を地域や社会に開かれたものにし、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携して子どもたちをはぐくむことが重要である。「学校評価の充実」については、学校評価を全教職員が参加し進めている割合が94%であり、昨年度の調査に比べて5%増加した。全教職員が学校の課題を共有し、課題解決のための方策を検討し実施することができた。

「学校規模適正化の推進」については、平成22年度まではすべて教育委員会が担当してきたが、平成23年度から幼稚園の適正化のみ「子ども未来部」が幼保一元化とあわせて検討することになった。小・中学校の適正化については、平成23年4月に相和小学校と大柳生小学校が統合し、興東小学校が開校した。また、平成23年6月に中学校区別実施計画（案）中期計画（平成23～25年度）を策定した後、適正化対象校の教員・保護者・地域住民に説明会を実施した。幼稚園の適正化については、平成24年度開園の「認定こども園左京幼稚園」の施設整備や運営面の準備など、スムーズな開園

になるように努めた。

「安全・安心な学校施設の充実」については、平成23年度で屋内運動場の耐震補強工事が完了し、耐震2次診断、補強設計、校舎の耐震補強工事も進めてきた。

以上のことから、「信頼される学校づくりの推進」については、平成23年度の目標がほぼ達成できたと考える。

- 基本目標5「地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進」においては、「地域で決める学校予算事業」として一本化したことにより、中学校区を単位とする取り組みが充実するとともに、学校と家庭・地域の連携と協力が深まった。また、学校園に対する支援活動が充実するとともに、地域住民が子どもと関わる機会が増え、地域で子どもを育てる意識が高まっている。

「地域ネットワークの拡大とコーディネーター研修の推進」については、学校支援地域本部事業の実施とともに、各地域教育協議会における総合コーディネーターを中心とする連絡体制が確立された。コーディネーターの必要性が認識されてきており、各地域教育協議会で登録されているコーディネーターの登録数が増加した。

「スクールサポート事業の充実」については、特別な支援や配慮を必要とする子どもへの支援、部活動支援、子どもの安全確保等の面で、学校現場におけるスクールサポーターの役割は大きい。教員の目の届きにくい時間・場所にも支援が行き届き、子どもたちにきめ細かな学習環境を提供することができた。本事業に参加する学生は意欲も高く、研修も積極的に受講し自らの力量の向上に努めた。

以上のことから、「地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進」については、平成23年度の目標がほぼ達成できたと考える。

- なお、基本目標の総合的な評価の参考として、各施策の評価を一覧にした。

1から5の基本目標に対して、4できた、3ほぼできた、(2あまりできていない1ほとんどできていない)、その中で、4「できた」と3「ほぼできた」を合わせたプラス評価の割合は、基本目標1, 2, 4, 5が100%。基本目標3が96%となった。

- 複数年評価については、次年度に計画している。「教育ビジョンの見直し」に備えて、平成21年度から3年間の達成状況について評価したものです。評価は、文章表記と4段階の数値によるものの2通りで行った。文章表記については、その内容が、成果か課題か、また、今後の抱負かわかりやすいように文頭に印をつけている。

- なお、複数年評価の基本目標の総合的な評価の参考として、各施策の評価を一覧にした。

1から5の基本目標に対して、4できた、3ほぼできた、(2あまりできていない1ほとんどできていない)、その中で、4「できた」と3「ほぼできた」を合わせたプラス評価の割合は、基本目標1, 4が100%。基本目標2, 3が96%。基本目標5が93%となった。

#### (4) 意見交換

- 平成23年度 奈良市教育ビジョンの施策評価 最終報告(案)について及び奈良市教育ビジョンの施策評価【複数年評価(H21~23)】最終報告(案)について、委員が意見交換。

重松座長☞ 主なところだけをピックアップしてその評価のプロセスを説明頂いた。それにかかわって、何か質問があればまずお願いしたい。新しい委員の方もお見え頂いているが、何か言葉や内容的なことでご質問頂きたいと思う。また、今の施策評価にかかわっての事例、あるいは、さらに検討が必要であるものについてもご紹介頂きたい。前は、それぞれの評価にかかわってご専門の部分で分担してご意見を頂いたが、今回は、自分たちの専門的などころでなくても結構ですので少し広くご意見を頂きたい。

本山委員☞ 前回の会議でも申し上げたと思うが、基本目標2「豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進」のところで、この基本目標の評価が3が圧倒的に多い状態になっている。例えば、年度別の表で31項目中30項目が3である。3年間の複数年評価でも31項目中29項目が3及び2が1項目ある。お伺いしたいのは、この平成23年度施策評価の資料を見る限り、目標に対してそれなりに成果をあげているように思うが、どのような形になったら4を付けるのか。ここが、学校教育の根幹的な部分で、奈良市としてやはり一番力を入れたいところ、実効性を上げたいところだと思う。そういう意味で、どういう形であれば4であったのか。説明しやすいところがあれば教えて欲しい。それがなぜ大事かという、平成24年度の目標及び改善点をみていると平成23年度と大きく変わっているところは少なく、どちらかという継続又は、充実という方向になっていると思う。となると、23年度の評価が3なのが、目標の立て方が良くなかったのではないとすれば、評価の仕方が成

果の取り方に問題があったのか。実際に実効性があがってなかったのか。それにもかかわらず、24年度も同じような目標を立てていることをどのように考えているのか。それと、平成23年度評価（P28）に本学の地域貢献事業との連携を取り上げて頂いているが、私の名前を消して頂き、取り組み事例ということなので大学名を載せて頂くことでご検討をお願いしたい。

重松座長☞ 最初の問題はなかなか難しくてどういう状態になれば4なのかというのは評価の基準として確固たるものを取りにくいと思う。

荒木委員☞ それに関連してよろしいでしょうか。今本山先生が言われたことと同じようなことが36番の学校図書館支援センター継続設置及び学校図書館の活性化という項目において、3という評価をされている。これについては、学校図書館支援センター通信の発行という新しい試みを行ったので3なのか。でも、学校図書館が活性化しているかといったら正直言うとそこまではまだいかないというのが現実である。この評価の基準としては、奈良市の教育施策として取り組んだことに対する評価なのか。取り組んだ施策によって良い結果や成果が上がったから高い評価になるのか。具体的な例として上げていただければより分かりやすいかと思ひ発言させて頂いた。

→ 【教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）】 もともこの教育ビジョンを作成した時に、この4、3、2、1の評価は「できた」、「ほぼできた」という具合にものすごくあいまいなところがあった。事業の中にははっきりと80%とか70%とかという基準を決めにくく、非常に基準が曖昧でファジイな状態になってしまっている。極端な話だが中身のある3の場合とあまり中身のない4というような場合もひょっとしたらあるかもしれない。今たまたま基本目標2「豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進」のところで3が沢山並んでしまって、他の基本目標と比べると非常に4が少ないが、その3の中には4に近いものもあるかも分らない。それは、もともと基準がはっきりしてなかったということから、曖昧な結果がでてしまっていると感じている。

重松座長☞ 出てくるのは、数値なのだがどちらかというと質的評価をしている。量的にこれだけの項目について、どれだけの達成があったから評価としては4だ、3だと。おそらく、施策としてこういう努力をしたが、それについてはまだまだ努力の足りないところや達成の課題がまだ一部見られることから、評価を3にしている。それぞれの項目で多少差異



があるのではないかというのが今の説明であると思う。

岡委員☞ 初めてこのビジョンを見せて頂いて、非常に多くの項目で奈良市が努力されていることに本当に敬意を表するが、逆に評価となると少し項目が多すぎると思う。112項目を評価して、例えば学校現場で足りないところを次年度どうするのかと考えるには項目が多すぎる。もっと絞って、例えば3年間なら3年間奈良市としてはこう努力するということがよく分かるようにする方が良いのではないか。今のことと関連して私が初めてこれを見て何で3なのか、で4なのか。その判断基準が分からない。各評価項目について評価の観点とともにもう少し基準をはっきりさせ、こうなったらこの3年間の目標を達成したと評価できるように。確かに、数値化するのは難しい部分があると思う。しかし、何々に努めるといったらそれは常にしなければならないことであって、何かの施策を評価する観点からいえば、もう少し具体性が必要である。これで見ると、1-1「世界遺産学習の充実」では、はっきりと数字が出ている数字が挙げやすいからこのような形になったと思うが、それ以降ではほとんど具体性がない。例えば、教員の資質向上のところでICT能力の活用が、これから大変重要になると思う。このことについては、文科省が毎年調査しているが、奈良市ではICTを活用して授業できる教員はどれだけいるのか。今後そのパーセンテージをどこまで高めていくのか。そういう設定の仕方はできるのではないか。それに、何か施策を行った結果で児童生徒にどんな力がついたのかという観点が非常に弱いと思う。例えば、30人学級について（私は非常に良いと思うが）これをずっと持続していくには、その成果をどうやって可視化していくか非常に難しい。国の教育政策研究所が、色々な調査をしているがなかなか決定打が出ない。奈良市として先進的にこういう取り組みをやっている中で、その良さをどう市民の方にアピールしていくのか。税金を使うことですから児童生徒の視点での評価を入れていかれたらどうかと思う。今までに携わってなくてこういうことを言うのは僭越ですが、この報告書を見た感想は以上です。

重松座長☞ 評価をしやすい行動目標にして、ある程度それに対して説明できるようなものにしてはどうかという意見もあったが、今のところこのような形で取り組んでいる。そういった意味では、後期のアンケートを基にして内容的なもの、同時に表現も含めて少し検討してみたいと思っている。今のところで、これだけ頑張ったんだから絶対4だと。こういった成果が、具体的にあって欲しい。どちらかというと、そういった

取り組みをやって児童生徒の変化、あるいは、学校の真の変化というところまでは結果としてなかなか難しい。しかも、一部の学校じゃなくて奈良市全体の学校がそうになっているというのはなかなか評価は難しい。私も良く授業評価をやるが、大体4が出てくるのはある項目に着目して80%以上がそのような状況にあるだろうと。それもできるだけ質的評価から量的な評価に変えていこうとしているが、必ずしもそこは難しいとしても、見る視点をなぜ80%にしたのかという議論ができる。奈良市全体の中で80%の学校が、あるいは80%の児童生徒がこういう状況になっているのが、4だとするとなかなかそこまで言えない。少なくとも、60~70%の状況としては見ることができよう。そういうことで、3になったと私自身は理解して読ませてもらった。皆さんが、もう少し行動目標として具体的な達成を明確にした方が良いのではないかとされている。

福山委員☞ P47「安全安心な環境づくりの推進」の中で「放課後子ども教室の推進」が3になっているが、今回24年度より全校区に放課後子ども教室ができたので、それにもなって活動が6年目のところと初めてのところがあって3の評価なのかも分からない。学校などの様子の中で伝統茶道とか子どもたちのコミュニケーション能力を高めるために専門の大学生が来て一緒に勉強しているので日本伝統古来のものも入れているという一文も入れて頂きたい。私のところは6年目に入って、1年目は群れて遊ぶということで、遊びを中心にやってきたがあまりにも子どもたちがお話しを聞かないのでコミュニケーションを取れるように絵本の読み聞かせを入れていたり、ほめほめカードというのを充実させてボランティアの方々がそれぞれの子どもの良いところを見つけ、それを伸ばそうという取り組みを行ってきた。年々目標を決めてやっている。今度は、親子の交流ということでNPOの団体の方に来て頂いて7月1日に親子囲碁大会を開催した。親子の交流の中でなぜ囲碁を取り入れたかということ「ありがとうございます」「よろしく願います」と子どもたちが対局を始める前に挨拶をする。その日本古来の礼儀というものを身に付けてもらい、挨拶することを子どもたちに伝えていきたいと始めた。子どもに囲碁の説明をする時に、囲碁を触って話を聞かないのが3組ぐらいいた。その親は、誰も注意しない。この状態を見て、話を聞かないのはここなんだと感じた。やっぱり子どもだけでなく親や地域との連携の中で、子どもたちに礼儀正しい挨拶を伝えていくのも親の姿勢がとても大事である。この地域はみんな一生懸命になって子どもたちを育ててくれているという思いを持って頂きたい。今回N

POを通じて3ヶ所の放課後子ども教室に、子どもたちのお菓子を出したりする費用を頂いた。近所の方に、参加賞にしたいので野菜を頂けないかとお願いすると、たくさん協力してもらえた。その心に私はありがたいと思ってお礼をすと言ったら、そんなのいらないから子どもたちのために使ってと言われた。その思いが、この地域の子どもたちは幸せなんだと温かい気持ちを感じた。今の目標としては、教えてほめる。教えないで怒ったり、こんなの分かっているのが当たり前と怒っていることが多いのではないか。教えてほめるというのをテーマにして、ありがとうの花束という、1日放課後で経験したことを今度は感謝の気持ちで友達にありがとうと言葉で言う。ほめほめカードは、大人の方から子どもの良いところを見つけていたが、今は子ども同士が誰々ちゃんありがとうと言えるような進め方をしている。もう少し、放課後子ども教室の様子の中で心を育てているという点も入れていただいたらありがたいと思う。

重松座長☞ 他の地区ではどうですか。

福山委員☞ 他に自主研修をしているところが集まる、自主研修連絡会というのを作っている。去年2回目の連絡会で、忌憚ない意見を出せるようなコーディネーターの意見交換会をやった。もっと充実した実践報告の場を市の方でも考えてもらっているが、もっと活発な意見交換があれば良いと思う。その研修の中で、やっぱり放課後子ども教室は支援のいる子どもたちが増えてきたので、支援をする子どもたちのための学校の先生方が参加する講習会や講演会のある時に、その地域のボランティアの人たちも一緒に参加させて頂ければありがたい。

重松座長☞ そういったかなり活発に行っておられるところの事例の紹介が可能ならば、こちらにも紹介頂ければと思う。

それ以外に一般的なモデルでこういった取り組みが他の地区、あるいは他の学校でも語り継いでいくような事例がありましたらご紹介いただければと、併せてお願いしたい。

福山委員☞ ちょっと3は、低いのかと思ったりはするが、初年度の方がいるからそうなるのではと考える。

後、夢スクールの利用促進ということで4になっているが、一時活発に教室活動があったと思うのだが、この23年度はどうなのか。もしかしたらちょっと停滞しているのではという思いがあり、もしかしたら4

ではなく3なのではないかと思う。

重松座長☞ こういった事例の収集は、継続的にやっている。

逆に言うと、ある地区は多少そういった課題を持っていたが、全体としては今まで通りで半分かもしれない。それもまた併せてみていただければと思う。

福山委員☞ 安全の所は、非常に青パトとか、見回りの方が充実していて非常に活発で、この評価の4というのは正しいと思う。

→ 【学校教育課長】 当初は予算を付けて地域の方が習字を教えて頂いたり、お花とかお茶を行っていたが、今は予算措置はしていないが、自主的に地域の方々に行っている。子どもたちは小学校なら20分くらいの休み時間も含めて楽しみにしており、地域の方とふれあいながら習字を習ったりと、各学校で行っている。

重松座長☞ どうもありがとうございます。それぞれの今までの施策というものが程度学校に定着しつつあるということで、計画的にこういう評価をお聞かせ頂いた。

それ以外に何か基本政策、基本目標に1からそれぞれ関わるところでいかがか。

前回のお話では幼稚園の子育て支援の施策で頑張っておられるという評価のお話を頂いたが、これも頑張って4になっている。幼稚園の先生、いかがでしょう。

木寅委員☞ それでは、幼稚園の方にお話を向けていただいたので58、59と子育て支援のところでお話しさせて頂きたい。まず58の項目だが、21、22、23年度で4という評価が続いている。先ほど本山先生のお話にもあったように、この4の中身はすごく段階が分かれている4の評価だと思って見ている。幼稚園の方は世代交代もあり、保育と教諭の資質向上ということで23、24年度はかなり力を入れて取り組んでいる。特に、公開保育を中心に、幼稚園だけでなく保育園とも一緒に公開保育をし、小学校の先生にも幼児教育を見て頂いた。今年度は、その公開保育研修の機会を多く設けて、多くの職員が参加できる体制をとっている。21～23年度は同じ4の評価だが、この最後の23年度、そして24年度の4というのは充実していつているという意味の4だと見させて頂いている。それと連動して、59の保育内容の評価指標に対し

ての意識というものがかなり明確になってきている。公開保育をしたり、保育の資質向上をする中で発達の姿を見とったり、育ちを共通理解して、評価感を共有する機会が23、24年度持ててきている。それで、評価をしていく上で評価指標の作成に向かっていけたらと思っている。

それから、預かり保育の推進という所で、今年度の目標というか、改善点にも挙げられているように各園それぞれ様々な状況の中で預かり保育を実施している。私、前に平城幼稚園で預かり保育をしていた時は、この預かり保育に職員が関わっていた。保育が終わってから、職員が2～4時まで預かり希望の子どもたちを保育するというので、かなり職員に対して負担をかけながらの預かり保育でした。ところが、今年度の六条幼稚園での預かり保育は、ボランティアの方、PTAの保護者、PTAを卒園されて小学校に進まれた元PTAのお母さんたちの協力を得ながら、預かり保育を進めている。なかなかボランティアの方との日程調節は難しいが、できる限りで日程を取りながら、ボランティアの協力、PTAの保護者、元PTAの協力を得ながら、色々な形態の預かり保育の実施ができるのではないかと思います。それに関しては、各園で情報交換をして、各園でできるところから始めていかないといけないと思っている。今年度、子ども未来部の方から幼稚園の園長会、主任会で今の幼稚園の状況、これからの状況とそのこともふまえながら幼児教育の充実や預かり保育の推進というのを考えていかないといけないと思っている。

重松座長☞ この保育園、幼稚園について高まっている所もあるけれども、そのシステムがより奈良市として普及する、共通化するにはもう少し時間があるということでこういう評価になっていると思う。

出原委員☞ 24年度の58、59の目標と改善点の部分で、59の目標は「一年間の具体的な子どもの姿を通して、援助の仕方やそれについての評価を表すことができるようにする。」と書いているが、何を基盤にしていくのかちょっと漠然としているような感じがする。保育内容を充実していき若い世代に受け継いでいく為に、奈良市立幼稚園会では保育内容研修部を今年度から設けた。保育の必要性を高め、専門性を磨くという目標を掲げて、公開保育とカンファレンスによる研修をし、ベテラン、管理職、若い先生を問わずに公開保育での意見を出し合って互いに高め、保育の内容の評価にもしながらより良い保育を目指すことの共通理解をしていこうという元で動いている。それをここに挙げて頂いて、それを元にどうだったかということも一念頭に評価して頂ければと思う。

重松座長☞ そのものを立ち上げたのは24年度からなのか。

出原委員☞ 24年度からです。

重松座長☞ これは23年度までの評価なので、次の24年度の活動の中にきちっと位置づけさせて頂きたい。評価としてはこういう準備をしたということで、努力のものとしてみる事ができる。

出原委員☞ それから、58番も23年度は奈良市幼児教育推進委員会が59番の所に指標の設定で研究が進んできたが、24年度は奈良市幼児教育推進委員会を今年も設置していただいて、保育の実践力を高め、就学教育の充実を目指した研修も手探りで、幼稚園教諭と保育士の資質向上を目指しているということも含めてお伝えしておきたい。

重松座長☞ そういった意味では、ここも4に変わる可能性も含めて実施状況の報告をお願いします。

その他23年度までの施策についていかがか。

本山委員☞ 多分出原委員がおっしゃったのは59番の24年度の目標の立て方で、他は施策レベルで書かれているが、ここだけおそらく教師の資質向上の目標内容みたいな形になっているので、59番の目標の決め方についてはまた今後ご検討頂いてもいいかなと思う。

重松座長☞ 他にいかがか。

上田委員☞ まず、1の項目の奈良市教育推進委員会の所の世界遺産学習について、3年間では4だが2と4が3という評価をされている。これはちょっとおかしいと思う。同じような形でいくべきだ。おそらく2番のESDはどこまで進んでいるかというところが入っているのかもしれないが、他の所で調べてみても差が4と2という風なものは無かった。2という項目は2、3カ所あったが、個々に見てみた場合、それぞれの成果、取り組み状況というものの基準がどこにあるかというのが分かりにくいからこういうことになっているという気がする。

それと同時に、紹介したい取り組み事例というのが各所にでていけれども、全体的に考えた方がいい。例えば、小学校だけが中心になっているものが多いが、中学校や幼稚園でも取り組みは必ずある。特に中学

校の取り組みが書かれているのが少ないから、中学校がはたしてどんなものなのかが分からない。どういう状況で取り組まれたり、その結果がどうなっているのか。その辺りを是非とも中に入れて頂きたいと思っている。

それから、23年度の19ページの「生徒指導や心のケアということの支援体制の充実」とあるが、私は項目的には26が一番主体であり、それに付随して27, 28, 29といった支援活動が入ってくると思う。だから26の項目については結果や色々なことをもっと入れてもいいのではないかと。先ほど別のプリントで頂いた43ページの96の項目なんかは取り組み状況、成果というのはそれだけとってくれている。だからこういう内容の中には取れると思う。この生徒指導ということは小学校ももちろんですから、大切な中心になることだと思う。このところの内容をもっとしっかり聞いてもらわないと駄目だなと痛切に感じている。

それから、29の教育センターで取り組みが始められたことが出てきているが、例えば34ページにある「支援学級への希望が増加」とは、どれだけ増加してどれだけ子どもたちに対応できているのか。できていない子どもたちはどれだけいるのか。これだけの表現では1つも分からないので、実際に子どもたちに対してどこまでできているかということが具体的に分かる表現にして頂きたい。その一例として、耐震化率の所でも(44ページ91-5)、奈良市が57.4%の達成率であり、全国的にはそれ以上なので3か。奈良市の年度基準から見た評価なのかもしれないが、パッと4という評価を見たらおそらく100%近い状態でできているのではないかと読みとれてしまうので、この数字を見たときに果たしてそれで良いのか。もっと早く耐震化には取り組んでほしいという気はしている。

それから、他の所でも学校規模適正化については、校区によって難しいことはたくさんあるとは思いますが、実際に児童生徒数の多い学校というのはそれほど無くなってきた。この学校の適正化は、今度は逆だと思う。興東小学校は2つが1つになった。それでも数十人。本当の適正規模でないと思う。そういう学校に対してはどういうことをすればいいのか。例えば他の学校との交流を深めるとか、他の所に行って授業を受けるとか、一緒に運動するという様な、子どもたちが多くの中で学んでいったときに良い面が出てきたらその地域の親たちもその辺は納得するだろうと思うので、小規模校の適正化という前にそういう施策的なことを考えて頂ければと思う。

それから、個々に細かいことで申し訳ないが、保育園と保育所が書い

てあるのは違うのか気になっている。それから、障害の「害」が漢字で書いてあるのと、かなで「がい」と書いてあるのはどういう表現が適正なのか分からないが、文章的には統一してほしい。

次に質問なのだが、不登校の実態は今どのような割合で、どんな状態になっているのか。それから、薬物に関することは、中学生のことだとは思いますが奈良市では現在ないのか、把握されていないのか。全国的にみると、高校生、中学生ももちろん入ってきているが、状況はどうか。また、ICTの研修がその数値では分からないが、どのくらいの参加者がいて、どのような状況でやっているのか。

今度は、別の事をお願いなのだが、42ページにあった「トイレの改修を実施」は絶対やってほしい。過去の経験から言って、トイレの綺麗な学校の子もたちは絶対良くなる。教師が進んでやってくれれば全然違う。子どもの中には家に帰るまで我慢しているという子もおり、大変だと思う。是非ともこれはやっていただきたい。

重松座長☞ どうもありがとうございます。実は、これ以外に教育施策評価というの併せてやっているが、基本的に経年評価が難しい場合、達成評価で年度評価をしないと何年か先に100%いくまで、おそらく2が続くこともなかなか難しい。年度ごとに評価をしようにも、耐震の問題では、実際予算があっても施工業者がいなかったりとなかなか難しいところもある。

上田委員☞ だから、先ほどの耐震化率の場合も57.4%しかないような数字は出さなければいいと思う。見たらやっぱりそれを感じますから。

重松座長☞ 数値が見せられるところは見せようとする、難しさが出てくる。他にはいかがか。

本車田委員☞ 富雄第三小中学校です。本校は昨年中学校が開校し、中学二年生を八年生と呼び、一年から八年までいる。1-4に関わって、「幼小連携、小中一貫教育の推進」の3という評価について、実際にまだ途上であるという気持ちがあるので、それに関わるところでお話したい。

施設一体型小中一貫教育校ということで、職員室も、職員会議も、会議に備えた企画運営委員会も小中一緒になっている。特に企画運営委員会は、前任校の小学校のように学年主任、教頭、校長とすると人が一杯になってしまう為、教務主任と管理職と生徒指導主任と構成員を精選している。小中一緒になると、学年主任なしで企画運営委員会をするのか



と思った。

一貫教育校であるので小学一年生から中学生までいる。そのため、規範意識は全くレベルが違い、その違いをどのように学校全体で理解していくかということで、生徒指導体制の充実がとても大切だと思った。小学校で生徒指導という感覚がちょっと違う。中学校の生徒指導というところがすごく細分化されている。昨年までは、小学校風だったのが今年は中学校の形に変わっていった。

それと、中学校で給食を開始しており、給食は小学校では当たり前だが、中学校の給食は給食費が小学校より月660円高い。小と中の違いは、パンが大きいということとご飯が多い、たまにあと1品付くというところだ。その結果、栄養士さんもおられるので、食育が小も中もまんべんなく行われている。今度、八年生で研修講座を栄養士の先生がされる。

さらに全国や市の学力学習状況調査というのをやっているが、その分析も小中一貫なのでいっぺんに見ることができるのではないかとということで今取り組んでいる。

驚いたことに、PTAの本部役員会に行くと、PTA組織を小も中も混ぜてやっている。例えば安全委員会とか、小学一年の保護者もいれば、中学二年の保護者もいる。中でも、小学校がすることを中学校の方でもやっているとか、小中学校がうまく入り混じっているPTA組織なのだと感じました。

最後に、本校の放課後子ども教室はかなり充実しており、伝統的なものが多く、茶の湯や、水墨画、囲碁教室がある。そして学習教室もある。また、バドミントンなどのスポーツも組まれていて、コーディネーターさんが中心に活動して下さっている。

重松座長☞ ありがとうございます。そういったことも少し掲載頂けるのであればまたご指摘頂きたいと思う。それぞれの項目でおそらく3から4に改善するにあたって、こういうところが評価の基準点として、あるいは資料として大事だというご意見があると思うので、現在のところの原案としてはお認め頂き、課題においてご指摘頂くところがあったり、さらに例示があるところについては、事務局にお知らせいただければと思う。そういったところを加味して、最終報告としたいと思っている。

いずれにしても、特に指摘が多かった評価について何故3か4かというのは疑問もあると思うし、項目的にもどうかというのもあったので併せて、説明できるものについて可能なところは検討させて頂きたい。大事なことは、委員の皆様のお力だけでなく是非各学校等々にもできる

だけ資料や状況を把握頂いて、どれだけ具体的に改善したのか、あるいは状況が具体的に施行されているのかということについて確認させて頂きたい。特に、ある良い実践があれば、他の学校にもPRやそのモデルの普及についても今後引き続き検討したい。教育がより正当なものであり、生徒の学力、あるいは規範意識、あるいは体力等々を、学校そのものも含めて改善されるように一層努力させていただきたいと思っているので、委員の皆さんのご協力を賜りたい。一旦評価に関わったことについては以上で収めさせて頂きたい。

続きまして、2つ目の協議事項としましてアンケートのことで、よりこのビジョンが奈良市の教育の柱となるため学校そのものの実践に深くご理解頂けるように、アンケートの中身についてご検討をよろしくお願ひしたい。最初に事務局の方から説明してもらおう。

- 事務局が、教育ビジョン後期計画策定に向けたアンケート調査について説明。(パワーポイント資料)
  - 調査目的について、奈良市教育委員会では、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、平成21年5月に奈良市の教育基本計画ともいえる「奈良市教育ビジョン(以下「教育ビジョン」という)」を策定し、前期計画(平成21～25年度)において様々な教育施策に取り組んできた。しかし、この間に学習指導要領改定に伴う新教育課程の実施や第2期教育振興基本計画の策定といった国の情勢変化が、また、第4次総合計画の策定や機構改革といった本市の情勢変化もあり、その変化等に対応する必要性から、教育ビジョンの後期計画(平成26～30年度)の策定に向け、前期計画を見直すことにした。その際、保護者や教員の教育に関する意識やニーズを知るためのアンケート調査を実施し、後期計画の策定に生かす。
  - 標本数、配布数の算出について、アンケート調査では、全体に対して調査を行ったのと同じ結果が出るということを前提に標本を取り実施する。標本をとる以上、完全に全体と回答の割合が一致することはない。この際に、生ずる標本値と全体値の差が標本誤差である。調査結果の信憑性を確保することから一般的にはその標本誤差を5%に設定しているところが多く見受けられる。そこで、今回のアンケート調査についても安全面を考えて標本誤差を4%に設定した。
  - 配布対象と配布方法については、

◎全配布数＝5429人 ◎全回収予想数＝3573人

①就学前児童（3～5歳）のいる保護者を対象

- ・住民基本台帳を用いて無作為に抽出（郵送による配布）
- ・3～5歳児＝1900人配布／全8573人中
- ・回収予想＝ $1900 \times 0.35 = 665$ 人

②市立小6年、中3年、高3年の児童生徒のいる保護者を対象  
(各校種別の出口調査を行う。各最上級生のPTAを対象)

- ・小学校・中学校・高校の保護者については、担任が配布し、後日担任が回収
- ・小中学校については、大規模校（19学級以上）を2学級。それ以外は、1学級に対してアンケートを実施。高等学校については、対象者数が少ないため全学級を対象とした。
- ・小学校6年＝1606人配布／全3068人中
- ・回収予想＝ $1606 \times 0.8 = 1285$ 人
- ・中学校3年＝733人配布／全2941人中
- ・回収予想＝ $733 \times 0.8 = 587$ 人
- ・高校3年＝358人配布／全358人中
- ・回収予想＝ $358 \times 0.8 = 287$ 人

③市立幼全学年、小2・4・6年（小学生については、低学年、中学年、高学年の各上の学年の担任と特別支援の担任）と特支、中2・3年と特支、高全学年の学級担任を対象

- ・教員については、学校に配布し、後日学校から回収
- ・幼稚園＝105人配布／全105人中
- ・回収予想＝ $105 \times 0.9 = 95$ 人
- ・小学校＝472人配布／全805人中
- ・回収予想＝ $472 \times 0.9 = 425$ 人
- ・中学校＝228人配布／全312人中
- ・回収予想＝ $228 \times 0.9 = 205$ 人
- ・高校＝27人配布／全27人中
- ・回収予想＝ $27 \times 0.9 = 24$ 人

➤ 調査質問数については、

- ・保護者対象＝幼稚園(15問)、小学校(9問)、中学校(7問)、高校(6問)

調査質問数については、幼稚園(15問)、小学校(9問)について

は、中学校(7問)に進路先、進路決定理由を追加しました。中学校(7問)については、高校(6問)に学級規模を追加した。

・教員対象=幼稚園(11問)、小学校(10問)、中学校(10問)、高校(9問)

調査質問数については、幼稚園(11問)、小、中学校(10問)については、高校(6問)に学級規模を追加した。

➤ 調査期間は、

・平成24年9月初旬(配布)～9月中旬(回収)⇒10月に業者による分析

・就学前児童(3～5歳)のいる保護者へ8月中旬郵送予定～9月中旬(回収)⇒10月に業者による分析を予定している。

➤ 調査対象は、幼小中高の保護者と教員にした。主な調査内容は、

**【保護者用】**

①学校教育の中で、特に大切にしなければならないことは何だと思うか。

②現時点で、自分の子どもにどのようなこと(力)が身についていると思うか。

③教育ビジョンの5つの「めざす子ども像」の中で、最も大切なものは何だと思えますか。

④どのような教員を希望しているのか。

⑤教育に最も適した1クラスは、何人ぐらいだと思うか。

⑥子どもの成長や教育には、誰の協力・関わりが必要だと思うか。

⑦進学先に何を期待するのか。(幼稚園対象)卒業後の進路をどうするのか。(小学校対象)

**【教員用】**

A学校教育の中で特に大切にしなければならないことは何だと思うか。

B現時点で、自分の学級の児童生徒にどのようなこと(力)が身に付いていると思うか。

C教育ビジョンの5つの「めざす子ども像」の中で、最も大切なものは何だと思うか。

Dどのような教育を目指しているのか。また、どのような資質能力

を身に付けたか。

E教育に最も適した1クラスは、何人ぐらいだと思うか。

F新学習指導要領の改善点の中で、特に大切だと思うものは何か。

G教育ビジョンの実現に向け、特に何を充実させればよいと思うか。

- このアンケート調査結果から分析を通して次のようなポイントで活用したいと考えている。

**【保護者用】**

①学校教育の中で、特に大切にしなければならないことは何だと思うか。

**【教員用】**

A学校教育の中で特に大切にしなければならないことは何だと思うか。

F新学習指導要領の改善点の中で、特に大切だと思うものは何か。

G教育ビジョンの実現に向け、特に何を充実させればよいと思うか。  
の結果から

- ・教育ビジョンの各基本目標にある領域や施策（事業）の必要性・重要性等を検討
- ・幼小中高へと子どもの年齢の上昇に伴う保護者の教育ニーズの変化を把握
- ・保護者と教員の教育に関する意識とニーズを比較することが可能以上のことから、事業の精査を行い必要な事業を残し重点化を考えております。

**【保護者用】**

②現時点で、自分の子どもにどのようなこと（力）が身についていると思うか。

**【教員用】**

B現時点で、自分の学級の児童生徒にどのようなこと(力)が身に付いていると思うか。の結果から

①学校教育の中で、特に大切にしなければならないことは何だと思うか。とA学校教育の中で特に大切にしなければならないことは何だと思うか。

結果の比較から、大切なこと（力）が実際に身に付いているかどうかの「理想と現実」を把握し、領域や施策（事業）における取組方法等の改善と奈良市の地域ゾーン別の特徴を把握し、きめ細かな指

導等を検討

以上のことから、課題を明確にし地域別の特徴から適切な指導を行なうことを考えている。

**【保護者用】**

③教育ビジョンの5つの「めざす子ども像」の中で、最も大切なものは何だと思いますか。

**【教員用】**

C教育ビジョンの5つの「めざす子ども像」の中で、最も大切なものは何だと思うか。の結果から

・5つの「子ども像」の中で、ベースになっているものが何かを把握し、「知・徳・体・夢・誇」の構造化や基本目標の順位等を検討

**【保護者用】**

④どのような教員を希望しているのか。

**【教員用】**

Dどのような教育を目指しているのか。また、どのような資質能力を身に付けたか。の結果から

・保護者が希望する教師像と教員自身が目指す教師像を比較し、教員の資質・能力の向上に向けて、教員研修等のあり方の改善の検討を考える。

**【保護者用】**

⑤教育に最も適した1クラスは、何人ぐらいだと思うか。

**【教員用】**

E教育に最も適した1クラスは、何人ぐらいだと思うか。

の結果から

・集団活動ときめの細かな教育によって、教育効果のあがる教育環境を整備するための改善の検討をし、30人学級・30人程度学級や学校規模適正化の事業の必要性を確認する。

**【保護者用】**

⑥子どもの成長や教育には、誰の協力・関わりが必要だと思うか。の結果から

・教育振興基本計画や教育ビジョンが示す「ヨコの連携」として、学校・家庭・地域が連携を図り、子どもをはぐくむ環境を作ることの重要性を確認する。

【保護者用】

⑦進学先に何を期待するのか。(幼稚園対象)卒業後の進路をどうするのか。(小学校対象)の結果から

・教育振興基本計画や教育ビジョンが示す「タテの接続」として、発達と学びの連続性を踏まえた教育を行なうことの重要性を確認する.とともに奈良市の地域ゾーン別における小学校から中学校への進路先を確認し課題を検討する。

重松座長☞ アンケートに関わって質問や意見があればお願いしたい。このアンケートが後期の教育ビジョン策定に関わって、寄与、または普及等々に貢献できるような内容なり視点というものになっているのか、何か質問、意見などがあればお願いしたい。

上田委員☞ このアンケートもあらかじめお送り頂いたのか。

重松座長☞ これは、今日の資料ですね。急遽で申し訳ない。今の観点を元に、更に項目で選択する形になっている。

出原委員☞ 就学前用のアンケートだが、問3で、2, 3, 5に当てはまる方は問9の「預かり保育を利用しているか」には当てはまらないのではないか。現状としては、幼稚園に来ている在園児の預かり保育を私立幼稚園に来ている子どもも預かり保育をしているので、2, 3, 5の方は答えようがないのではないか。実際、預かり保育の対象者にはなっていないから「利用していない」というのがずっと出てくるのではないか。同じ市立幼稚園でも預かり保育を実施している所としていない所がある。

重松座長☞ 今後、内容を変えれば聞けることはあるか。

本山委員☞ 今の問題で行くと、就学前用は無作為に郵送ということなので、この用紙を受け取るご家庭の状態からすると、幼稚園や認定こども園に行っているお子さんと、既に保育所に行っているお子さんと、全く未就園のお子さんとの間にやや問題が複雑になる。つまり、出原委員のご指摘のあった部分は、市立の幼稚園または認定こども園でなければ預かり保育はしないので、問3で1か4と答えた人でないと問9, 10, 11を問う意味がないということになる。なので保育所や未就園の方が

問9, 10, 11を見ると疑問に思うというのが1点ある。

また、未就園のお子さんがいるご家庭については後ろの問12, 問13が答えられるが、そもそもはじめから保育所に行かれていますご家庭は問9以降がほとんど意味をなしていない可能性がある。

教育ビジョン自体が教育委員会の管轄で行われており難しいところはあると思うが、就学前用としてはこども未来部と相談の上で再度構成し直してはどうか。

→ 【教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）】 問9から問15にいたっては、今言われた通り、元々保育所や私立の幼稚園に預けている方で当てはまらないというケースも挙がっているが、例えば保育園を利用している方で「預かり保育を利用していますか」という問いにも「利用していない」と回答していただければ良いのではないかと。というのも、市立保育園で9番や12番や15番でアンケートを取りながら、こういうことをやっているという紹介もしたかった。実際市立幼稚園でこういう取組みをされているということを知らない若い母親がいる中、市立保育園に預けておられる方がこのアンケートを受け取った時に、市の方でこんなことをやっているという紹介の意味を含めてのアンケートだということ考えて頂ければよいと思う。

本山委員☞ その趣旨は良く分かるが、全7ページ中5ページ以降は回答しづらいというのは、せっかく協力頂くのにご回答の意欲を削いでしまうのではないかと。思うし、サンプリングについては1900部配布の予定で無作為抽出ということだが、少なくとも幼稚園とこども園、市立保育園については直で聞いてもいいのではないかと。小学校や中学校と同様に担任からという形で市立幼稚園、保育園には配布し、それ以外のご家庭には郵送という2段階で取られてはどうか。どちらを取っても色々メリット、デメリットはあると思う。

重松座長☞ それはご家庭の特定が難しいと思われる。無作為抽出をしてそこに送られているかどうかというのは難しいところではある。

後半は意味があるように、PRだけではなくて実態を表す項目などが入っているとご意見を賜りやすい。こういう項目があってはどうか、せっかくだからこういう事を知りたいというのがあればそちらでも結構ですので、すべての項目を無くさないようにしたい。

→ 【教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）】 保護者対象の質問とい



うのは、多少表現は変えてあるが、大きな内容としては幼小中高とほとんど同じ。後でクロス集計などを考えているので、保護者用も教員用もベースは良く似ているが3～5歳児の保護者に対してのみ問9～15が多いから15問になっている。この6問を付け足した部分は小中高と内容が違っているが、市立保育園の今一番の育児支援と言われている預かり保育や3歳児保育がとてもニーズが高く、その辺りの認識も持っていない保護者もいるのではないかという意味も強い。

荒木委員☞ アイデアとして、問題紙を2部にしてはどうか。5ページのものからは別刷りにし、問3で1, 3と回答した方のみ別紙のアンケートにもお答え頂くという風にすると分かりやすいし、読んだのに…ということも無くなる。ただ、読まない方への目的であるPRという点では薄れるが、混乱については若干避けられるのではないか。

重松座長☞ 1つのご意見として賜っておく。他にないか。

木寅委員☞ 問9で「利用している」と回答した方への理由を聞いているが、これをどのように活用するのか。理由を聞く必要はあるのか。「利用している」「利用していない」のみの回答でいいのではないか。

重松座長☞ その理由に合った施設、場の提供の在り方を検討したい。無回答の方もおられると思うが、可能であれば理由を聞きたい。

→ 【教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）】どんな目的で預かり保育を利用してもある意味自由だが、どういう理由が多くを占めているのかを知っておくために項目を入れた。

出原委員☞ その前に、私立幼稚園での預かり保育の実態を掴んでおかないと、預かり保育の実施は幼稚園によって様々なので、全く実施していない所の保護者としては他では実施しているのにという思いもある。また、認定こども園というものがどういうものなのか、奈良市にそれがあるといことも全く知らない方も多い。認定こども園があつて3歳児保育が始まっているのに、何故他にも広まらないのかとみなさんが言われる。保護者としては、それに向かうものなのか、これをどのように生かしてくれるのかという思いもある。預かり保育が同じ条件で平等に行われているのであれば問題ないが。

→ 【教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）】それについては把握しているので、「実施日数は園によって異なる」等の文言を最後に記載している。

荒木委員☞ 幼稚園長も兼ねているので意見を付け加えるが、このアンケートが家庭に届いた場合、また幼稚園に預かり保育の希望が増える。しかし、人数が少ないため実質的に無理な状況であり、こういう問い合わせがあっても断らなければならない。その際、園への信頼感が損なわれないような説明をしなければならないので出原委員の心配を共有したい。

木寅委員☞ アピールを兼ねてのアンケートということだが、その内容については「こういう内容を知っていますか」程度にして、奈良市の状況（認定こども園や預かり保育等）について在園の幼稚園の保護者でさえ内容を掴めていない状況で、無作為でこの用紙を受け取ると結果としてアンケートが生きてこない。問9以降に関しては奈良市が行っていることについてのアピールになるのであれば、状況を知っているかどうかという周知のアンケートにした方が今後に活かせるのではないか。

重松座長☞ その他、保護者の立場としての意見はないか。

畑中委員☞ 最初アンケートと聞いて、小中学校の保護者の希望が多数回答されればその通りになっていくのではと心配したが、そのような事は感じられなかったので安心した。だが、幼稚園児の保護者へのアンケートについては周知を通り越して、保護者の希望や園の状況など、アンケートとしての主旨を果たし辛いのではないか。

また、奈良市の教育についての意見記入欄へは保護者のたくさんの要望が寄せられると思うので、どのような意見があったのか公表してほしい。意見を書いた以上保護者側は期待を寄せるので、その意見をどのように反映していくのかが重要になると思う。

奥田委員☞ 「学校教育として特に大切にしていかなければならないこと」や「先生にどんなことを望んでいますか」という質問は1つに書ききれない。どれも大切だと思うので回答は3つに収まらないのではないか。

重松座長☞ 一般的なアンケートでは3つくらいを選べばだいたい抽出できる。どうしてもという場合は最後の意見欄へ記載されると思われる。

本山委員☞ 今の意見と共通して、回答を1つしか選ばせないのは難しいのではないかと。また、この結果が出たときにどう解釈するか、どういう風に施策に反映するのかということもあらかじめ念頭に置いて回答を得ないといけないのではないかと。例えば、教員用アンケートでは小中学校用の問6（保護者用であれば問5）が1つとなった場合、回答数によって順位がつくと思うが、それが何を意味するのか。おそらくここに挙げられているものは全て重要。保護者側に立てば全部お願いしたい気持ちだと思う。教師側としても自分が目指す教師像を1つに絞るとするのも非常にやりにくいだろうと思う。例えば、教師向けで言うと、自分の目指している所の重要度をそう思うからそう思わないまでの4件くらいで選ぶようにする4件法か、目指す教員像と並行して今の自分にとって何を課題にしているかという2段階構えで聞くか。保護者向けに関しても1つは難しいので、ここも4件法にするか2つくらいの選択肢にわけて聞くか。回答方法をそろえるのであれば4件法がいいかもしれない。

他の所で1番気になったのは、それぞれ「教育ビジョンの目指す子ども像で最も大切なのはどれですか」というものが保護者向けにも教員向けにも挙がっているかと思うが、これはどういう意図で1つを選ぶようにしたのか。これを聞くということはこの委員会自体の自殺行為だと思う。つまり、この教育ビジョンを設定する過程で色々な議論があり、奈良で学んだことを誇らしげに語れる子ということを柱に組んである為、これに順位がついて下位になったものはどうなるのか。どうしても1つというのであればそうする理由を教えてください。

また、小学校保護者用の問9「市内の公立中学校への進学をしない場合の理由」についてはもう少し踏み込んで聞いてもいいのではないかと。1番の大きな理由としては「親が行かせたい」だろうと思うが、その理由が分かるような項目が入っていてもいいのでは。例えば、「子どもの将来の学歴、進学を考えて」や、婉曲的には記載されているが中学校内のネガティブな問題や、「自分の子どもの学力に見合った教育がなされていない」等、これだけの大量調査を実施するのであればもう少し親の本音が分かる項目が入っていてもいいのでは。

重松座長☞ ありがとうございます。基本的には今日皆さんにお聞きして、これで決定というわけではない。いろんな意味でまだ修正するところもご意見もお持ちだとは思いますが、最終的には選択させていただければと思う。主旨はこのビジョンの主旨徹底と同時に、後期のビジョンに対するご意見を頂き、奈良市の教育の改善を図るための手掛かりにしたいということなので、それに対するご意見を賜ればと思う。

いずれも連絡方法に関してはFAXでも結構ですし、電子メールでも結構ですので、先ほどの使える教育ビジョンの評価に関わると同時に、よければご意見を頂きたい。できれば、こういう風な改善をとったご意見を頂くとより具体的な検討ができるかと思う。

それでは、非常に短時間での検討になったが、こういったことを通してより教育ビジョンというものが奈良市民の皆さんに浸透し、また問題指摘もして頂き、結果的には奈良市の教育の指摘改善を図りたいという主旨であるので、より一層の知恵を拝借できればと思う。

- 【教育総務部参事(教育政策課長事務取扱)】 本日は2時間の長時間、ありがとうございました。特に、色んな委員から意見を頂いているときにふと3年前これを作った時のことを思い出したのは、年度目標を作るときに指導主事みんな集まって、「できる限り数値目標をあげよう」という形でスタートしたので、意識しながら作ったのだが、やはり年度を重ねるにしたがってだんだんと今改めて言われて抽象的な目標になっているところも出てきているなど。この資料で言うのであれば23年度の目標が曖昧であれば、当然24年度の改善点もどんどん曖昧になってくる。全て数値目標がいいとは限らないが、今後改善していきたい。

今年初めて4の方が委員になられたので、数値評価の領域の後ろに必ず学校の取り組み事例や学校の様子が入っているのは、このビジョンを作るときに、行政が行っている施策評価とは違って、学校現場で役立つような評価報告書にしようということで、学校現場の先生がただ数値だけを見て上がった、下がったではなくて、このような取り組みをしている学校もあるのか、本校も真似をしてみよう、この学校以上のことを取り組んでみようといった刺激にもなればよいということで、各領域の後ろに学校等の紹介も載せているのでまた参考にして頂ければと思う。どうもありがとうございました。

#### (5) 今後のスケジュール

- 事務局が、今後のスケジュールを説明。
  - 次回の懇話会は今年の11月頃を予定している。本日出して頂いたご意見を踏まえてアンケートの内容も修正しながら実施していきたいと考えている。次回の懇話会にはアンケート結果の速報を示しながら、後期計画の策定に向けての話しをして頂ければと思う。